

アメリカンフットボールの北海道学生選手権は23日、札幌大グラウンドで第5節の2試合を行い、甲子園ボウルにつながる1部リーグは北海道大が札幌大に111-0で大勝した。この結果、試合のなかった北海学園大と北海道大が3勝で首位に並んだ。

台風から変わった温帯低気圧の影響で会場を厚別公園競技場から変更し、雨中の戦いとなったが、北海道大は第1QにRB荒山赳（4年、東京・麻布高）のTDランで先制すると、その後もラン攻撃を主体に15回の攻撃シリーズすべてを得点に結びつける猛攻を見せた。荒山は363ヤードを走り7TD、RB中牟田晃基（3年、埼玉・浦和高）が4TD、RB手塚雅斗（2年、栃木・佐野高）が2TDと、自慢のラン攻撃が爆発した。交代選手のいない11人で臨んだ札幌大は、前節に続く100失点試合となった。

北海道大の村井公寿監督は「今日は多くの選手を使い、全シリーズでスコアを奪うことが目標だった。ランプレーがよく決まり、パスもタイミングが合ってきた。挑戦者として残り2試合に上り調子で臨みたい」と2年ぶりの優勝へ照準を合わせた。総獲得591ヤードのうち532ヤードを稼いだラン攻撃の主役となった荒山は「雨でグラウンドコンディションが悪かったので、パス攻撃の分も走り回った。去年よりも攻撃ラインが強くなり、走りやすくなっている。北海学園大戦もランが出るかどうか勝負になる」と力を込めた。

第6節は29日、札幌厚別公園競技場で1部の北海学園大-札幌学院大（午前10時）、帯広畜産大で2部の北海道医療大-釧路公立大（午前10時）と1部の北星学園大-帯広畜産大（午後1時）を行う。

（北海道学生アメリカンフットボール連盟広報委員・塚田博）